

き い ぶ



平塚市図書館

平成19年（2007年）12月 第72号

移動図書館あおぞら号が今年で25周年を迎えました。

昭和57年（1982年）に運行を開始した移動図書館あおぞら号は、大勢の方々に支えられて、25年経った今も平塚市内を縦横に駆け巡っています。

図書館が近隣にない地域の方々に、図書などを提供しているあおぞら号。現在は、小学校や公民館など市内15箇所のステーションを、2週間に1回訪れています。また、昨年からは市内の幼稚園・保育園を訪問して、絵本などを貸出する「出前図書館」サービスを開始しました。

平塚市図書館ではあおぞら号が25周年を迎えたことを記念して、あおぞら号の各ステーションで「夢のあおぞら号」の絵画や「あおぞら号へのメッセージ」を募集し、多くの方にご応募いただきました。これらの絵画やメッセージは、1月から館内およびあおぞら号車内に掲示していく予定です。



昨年2月に就役した

3代目あおぞら号

「あおぞら号」という名前は、公募の際に市民の方々から最も多く挙げられたものでした。青空の下で図書や雑誌を選ぶという、他の図書館とはちょっと違った体験ができる移動図書館あおぞら号。ステーションの近隣にお住まいの方は、どうぞご利用ください。

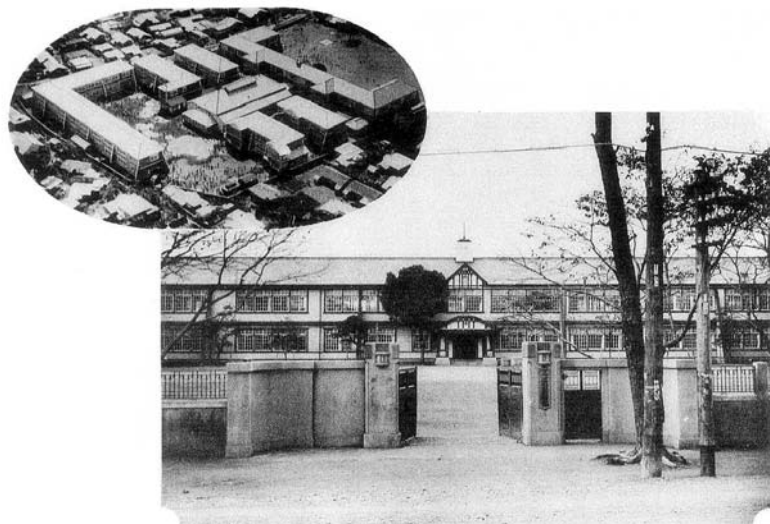
お問合せ先 平塚市中央図書館 電話0463（31）0415

自動音声で応答します。「5」をダイヤルすると、職員と通話できます。

図書館のあゆみ (連載第3回)

3. 平塚町立青年図書館

昭和3年(1928年)11月、平塚町青年団は、天皇即位記念事業として、第一小学校の一室に図書館を開設した。しかし、技術的に研究不足であったため、貸出方法を杜撰にして図書の散逸をきたしてしまい、一兩年で有名無実となってしまった。



平塚市立平塚第一尋常小学校

(「平塚市史」7 資料編)

4. 平塚市民図書館

昭和15年(1940年)3月19日平塚市は、紀元2600年記念事業として平塚市民図書館設置を計画し、市議会で議決された。設置費3,000円、経常費12,000円総額15,000円の予算で第一小学校理科教室を改造して使用する予定であったが、同年10月に平塚市立特設高等小学校玄関西側の教室にて開館した。当時の予算には、設備費や人件費はあったが、図書購入費はなかった。このため、後援会を設けてその会費をもってこれにあて、閲覧料1回2銭、12回20銭を徴収した。この後援会には次の諸氏が会員となり、会費は月額1円であった。

原田 敬治 (当時平塚市長)
杉山 昌夫 (当時平塚市議会議長)
和田 林之助(当時平塚市議会議員)
原田 道成 (当時平塚市議会議員)
柿沢 篤太郎(後に平塚市長)
加藤 一太郎(後に平塚市長)
高瀬 慎吾 (当時平塚市議会議員)

亀井 幸之助(第5代平塚市立実科高等女学校長)

笹尾 源治 (後に高浜高等学校長)

桜井 諄 (後に初代平塚市図書館長)

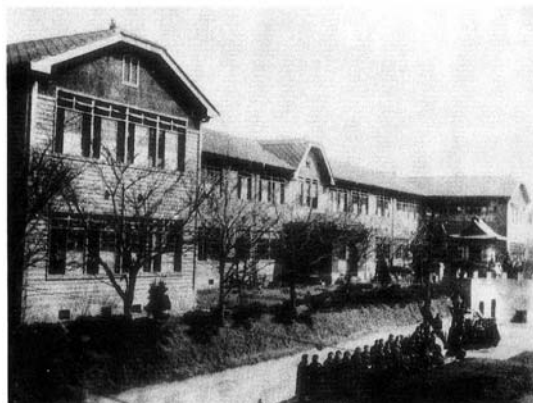
池田 善太郎(当時平塚市議会議員)

久保寺 鎮夫(当時平塚市議会議員)

古家 達三 (当時平塚市議会議員)

平野 勝二 (当時平塚市議会議員)

永井 専太郎(前平塚市議会議員)



平塚市立平特設高等小学校

〔独立校舎〕

(「平塚市史」7 資料編)

この会費で購入した図書には『世界文学全集』(新潮社)、『シェークスピア全集』(中央公論社)などがあった。

また、市民からの図書寄贈を受けその中には、太田貞市氏(日本電力平塚営業所長)

の経済関係図書50冊、奥野彦六氏(弁護士)の図書100冊、山田録郎氏の徳富蘇峯著『近世日本国民史』全巻などがあった。

しかし、これらの図書は、太平洋戦争の激化にともない一部を疎開したものの、昭和20年(1945年)7月16日から17日の空襲によってその大部分を焼失してしまい5年間にわたる活動は、ここに終息した。

(平塚町立青年図書館関係参考文献)

『神奈川県図書館史』 神奈川県立図書館 1966年

『神奈川県図書館月報』第49号(昭和13年3月) 神奈川県図書館協会

(平塚市民図書館関係参考文献)

『神奈川県図書館史』 神奈川県立図書館 1966年

『いつもの寄り道 散歩道』 平塚市中央図書館 1999年

『神奈川県図書館月報』第78号(昭和15年8月) 神奈川県図書館協会

『広報ひらつか』NO.403(昭和60年2月15日) 平塚市

特集展示 社史・団体史の本

期間：2007年12月1日(土)～2008年1月30日(水)

場所：平塚市中央図書館1階ホール

波多野貞夫と羽仁説子

波多野貞夫氏は、海軍の軍人であり、平塚にあった海軍火薬廠の第2代廠長であった。一方、羽仁説子氏は、戦前戦後を通して子どもを守る運動や平和運動を推進してきた代表的な人物であった。この一見して相容れないように見える二人であるが、実は二人に共通することがある。それは、ともに熱心なキリスト教信者であること及び、羽仁氏が結核のため、平塚の波多野氏宅で療養生活をすごしていたことである。

今回は、羽仁氏の療養生活の様子と、これを物心両面から支援した波多野氏を取りあげる。波多野氏は、軍人というよりもむしろ化学者・哲学者とさえ思えてくる。まさに隠れた聖人である。

なお、この記事を書くにあたり神奈川県立図書館及び近藤實様(大磯町)のご協力を得ましたので、ここに厚くお礼申し上げます。

1. 略年譜

	波多野 貞夫	羽仁 説子
1881年(M14)	5.21 波多野敬、セイの四男として長野市で誕生	
1900年(M33)	海軍兵学校卒業	
1902年(M35)	少尉	
1903年(M36)		4.2 羽仁吉一、もと子の長女として東京・赤坂で誕生
1908年(M41)	フランスに駐在し火薬を研究	
1918年(T7)	12.1 呉工廠火薬試験所長	父・吉一と共に富士見町教会で植村正久牧師から洗礼を受ける
1920年(T9)	10.1 平塚の海軍火薬廠研究部長 平塚美普教会の客員となり礼拝参加	肺結核のため、平塚の波多野貞夫宅で療養
1922年(T11)		療養生活から解放されて自由学園高等部へ入学
1923年(T12)	12.1 海軍火薬廠長(1930年6月まで)	
1924年(T13)		自由学園卒業。再度平塚で療養生活その後「婦人之友」の記者となる
1926年(T15)	平塚美普教会の正会員となる	4.8 歴史学者・森五郎と結婚
1927年(S2)	12.1 中将	
1930年(S5)	日本基督平塚富士見町教会が発足し波多野ら4家族が同教会へ移る	
1932年(S7)	3.31 予備役	
1941年(S16)		大政翼賛会調査委員会委員。産業報国会婦人指導委員
1942年(S17)	1.7 永眠 1.9 東京の富士見町教会にて葬儀	大日本婦人会常任理事
1946年(S21)		宮本百合子らと「婦人民主クラブ」結成に参加。民主保育連盟幹事長(1962年まで)
1947年(S22)		「婦人民主クラブ」第1回大会で役員となり「教育部」を担当
1952年(S27)		日本子どもを守る会副会長兼事務局長(1960年まで)
1961年(S36)		日本子どもを守る会会長
1963年(S38)		全国幼年教育研究協議会会長
1987年(S62)		7.10 東京都中野区の自宅で永眠

(注)『羽仁説子の本』5(草土文化)の巻末略年譜では、1918年(大正7)湘南の平塚で波多野貞夫宅にあずけられ、療養生活に入ると記載されているが、波多野氏は、1920年(大正9)呉より平塚へ赴任してきたためここでは、1920年波多野氏宅で療養生活に入るとしました。

2.波多野貞夫

氏は、1881年（明治14年）5月21日、父・波多野敬と母・セイの四男として長野県長野市で誕生し、翌年一家は東京へ移る。父・敬は会計検査院検査官補をしていた。なお、次男・精一は、早稲田大学、京都帝国大学の教授で著名な宗教哲学者であった。

1900年（明治33年）海軍兵学校28期を首席で卒業し、1908年（明治41年）フランス駐在を、1910年（明治43年）にはドイツ駐在を命ぜられ火薬の調査研究に没頭した。その後1918年（大正7年）呉工廠火薬試験所長、1920年（大正9年）に海軍火薬廠研究部長となり、呉より平塚へ赴任し、1923年（大正12年）に第2代海軍火薬廠長となる。一方、氏の信仰面では、兄・精一氏と共に熱心なキリスト教信者であった。当時平塚には日基系の教会がなかったため平塚美普教会の客員となり礼拝に出

席したが、1930年（昭和5年）3月31日、日本基督平塚富士見町教会が設立されたので、波多野氏ら4家族は同教会へ移ることになった。1932年（昭和7年）予備役となり、1939年（昭和14年）7月「銅柱制圧装置による火薬ガス圧力測定の研究」という論文を早稲田大学に提出し工学博士の学位を受けた。1942年（昭和17年）1月7日午前8時永眠。1月9日東京の富士見町教会にて葬儀が行なわれた。自宅は平塚市西

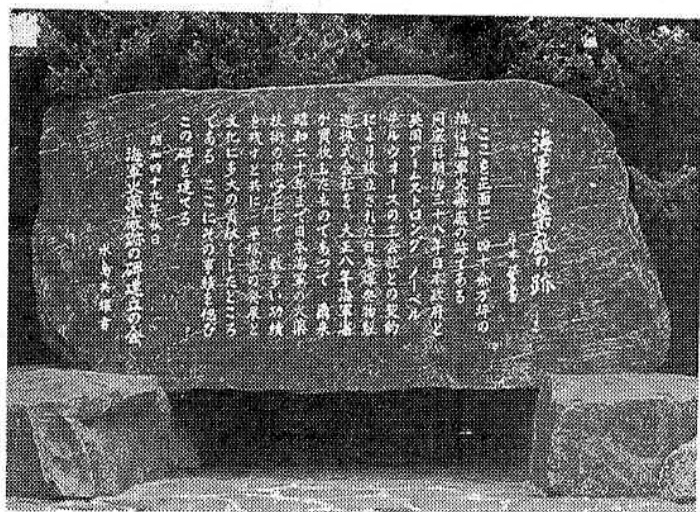


波多野貞夫中将（近藤實様寄贈）

海岸東濱嶽。

『海軍火薬廠追想録』のなかで久保田良雄氏は、波多野氏について以下のように書いている。

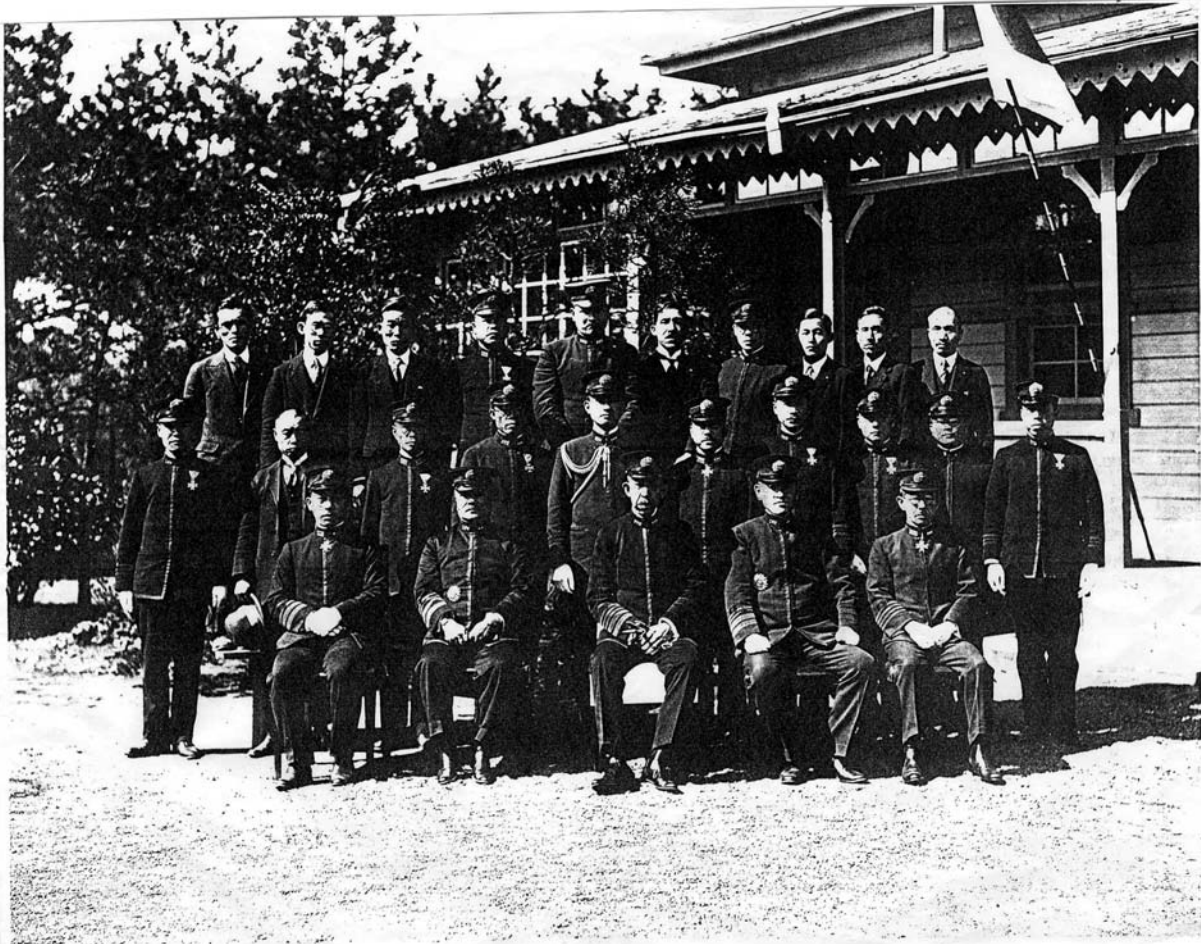
…海軍兵学校は首席。次席が永野修身（元帥海軍大将、軍令部総長）と聞いた。少尉候補生のとき、軍艦の「神棚」を批判したとかで「待命被仰付」。だが、余りにも秀才中の秀才。海軍一の頭脳を惜しまれて、首にもならず中将まで進んだ。昔から海軍は「人材」を大切にしたのである。廠長はクリスチャンと聞く。軍艦の神棚批判も、当時私はこれに結びつけて納得したも



「海軍火薬廠の跡」の碑（「広報ひらつか」平成6年5月15日号より）

のだが、今考えると、どうしてどうして、そんな単純なものではなかったような気がする。

海軍大学校を出なければ、大佐止まりの当時の海軍。しかし海大で波多野を教える教官も居ない。教本も無い。ついに海大を出ず仕舞で、中將の位を極めた世界的頭脳。…廠長のモットーは「人格第一」であった。毎月の給料袋には、この「人格第一」と、短文の教訓が必ず印刷されていた。火薬工場らしい「安全第一」でも「増産第一」でもなかった。…白晳長身瘦軀。細い金縁のメガネ。学者、思想家、神学者のような、軍人であった。…



伏見宮博恭王と火薬廠幹部（昭和3年頃）前列中央伏見宮、右側波多野廠長（近藤實様寄贈）

3.羽仁説子

氏は、1903年(明治36年)4月2日、父・羽仁吉一と母・もと子の長女として東京の赤坂で誕生。説子誕生の翌日、「家庭之友」(後に「婦人之友」と改題)が創刊され、父が編集長、母が主筆兼記者であった。1916年(大正5年)日本女子大学付属高等女学校に入学。1918年(大正7年)東京の富士見町教会で父と共に植村正久牧師から洗礼をうけキリスト教徒となる。この年スペイン風邪にかかり肺炎を併発し、予後悪く肺結核と診断される。1920年(大正9年)から自由学園高等部に入学する1922年(大正11年)までの間、平塚の波多野貞夫宅で療養生活をおくることになる。この間、恋をし

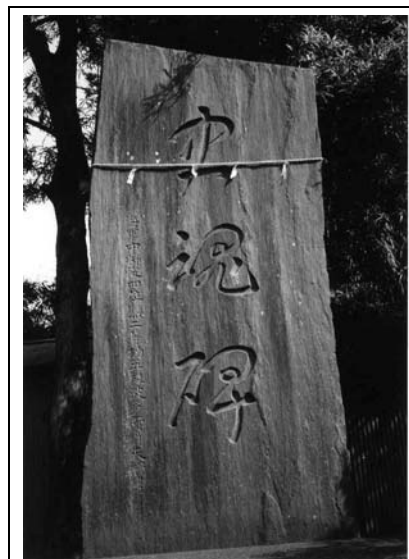
たが母の意図と恋人の健康上の理由から成就しなかった。1924年（大正13年）自由学園を卒業し「婦人之友」の記者として活動を開始する。1926年（大正15年）4月8日森五郎と結婚。以後、育児と家事に追われながらも、戦前戦後を通して「子どもを守る運動」「平和運動」「婦人運動」のリーダーとして活躍した。1987年（昭和62年）7月10日、東京都中野区の自宅で永眠。

波多野宅での療養生活については、「婦人之友」昭和17年4月号と『妻のころ』岩波新書に掲載されているので紹介します。

①『思い出 波多野貞夫中将を悼む』羽仁説子（「婦人之友」昭和17年4月号掲載）

…私が今日あるのは、文字どおり波多野さんのおかげである。病弱の私にほんとうの療養生活を教え、今日の健康を築いて下さったのはおじさまである。当時、平塚の海軍火薬廠の廠長として忙しいからだで殊に火薬の権威であるおじ様が良心的な態度で目のまわるほどの仕事ぶりであったと思われるのに、私のことを患者さんと呼び御自分のことを院長といって、ねてばかりいる私のために細い時間割をつくり一つの面倒も億劫がらず闘病作戦をたてて下さった。本を一さい読んではならないこと。しかし聖書だけ読んでよろしいとゆうことで、しかも私の持っていた聖書が少々部厚であるのを見ると、重いのはよくないからといって、うすいものをかし與えてくださった。おはなれの高い二階にねて、終日平塚の原をわたる風の音をききながら、四福音書をよみ福音の書簡をよみ詩篇をくりかえし、手がつめなくなるまで聖書を寝具の上に出して読みながら、まことにつらい忍耐であったけれど、闘病もまた信仰のためであると励まして下さるおじさまのお心持、なみなみならぬ御親切に対して私は心のうちに何べんお礼をくりかえしていたかしない。

もういまから二十年あまり前のことになるわけだ。私が女学校三年生の頃大戦後のスペイン風邪の世界的流行で私も重い肺炎にかゝり、漸くそれをきりぬけてからも数年病人生活でつまずきつまずきなかなか立ち直れない私のために、忙しい母が心をくだき私といっしょに転地することを決心してそのために家をさがし歩いているその様子を見て、いままで一面識もなかった植村正久先生の御紹介をいただいてお訪ねして行った私たちのために、即座に私をあずかってあげようといってお下さった御親切を、母はくりかえし感謝している。それなのにおじさま自身はいつも御自分のなさった親切を忘れて居られる。神のために、隣人に奉仕することが許されるのは自分の幸福であると全身の感情をもって信じて居られる方であった。まして同じ信仰に生きる同志の困難を助けることはおじさまにとっては當然のことである。ただあずかるだけでなく、りっぱにもとのからだにして御栄のために働



忠魂碑 海軍中将従四位勲
二等功五級 波多野貞夫謹
書 昭和3年10月南原建
立
(近藤實様寄贈)

けるものにしてかえすことが當然の御親切であったのだ。…

②『妻のころ』羽仁説子 岩波書店 1979年

…私がTに出あったのは、私の療養生活をみちびき守ってくださった波多野貞夫先生のお二階においでいただいているころでした。丹沢の山々が霞み、春にはつばなの穂が野から吹きあげられ、部屋のなかが銀色になることもあるような田園の中に、海軍の火薬廠があり、波多野先生はその研究部長。あき子夫人は背のたかい美人で、無器用な私を妹のように親切にいたわり、教えてくださった。四年もつづいた療養生活からやっと快復の光が見えてくるころ、波多野先生は、南湖院にいてときどきたずねてくる東大中退の彼と私とを相手に、雑誌『改造』の論文などを朗読、私たちに論争をしかけられる。マルキシズムにふれはじめた彼の論調と、先生とのほげしいやりとり。私はただ真剣にその後を追う。倉田百三、高倉テルなどの小説がのると、「今日は説子さんが問題提起をしてくださいよ」といわれる。先生は化学者だけれど、お兄さんの波多野精一先生の影響か、哲学好きで、ベルグソンの話をしてくださる。私は十八歳。…

(波多野貞夫関係参考文献)

『陸海軍将官人事総覧』海軍篇	芙蓉書房	1981年
『日本陸海軍事典』下	新人物往来社	2003年
『海軍火薬廠追想録』	海軍火薬廠追想録刊行会	1985年
『海軍火薬廠50周年追憶記念文集』	海軍火薬廠50周年追憶記念文集刊行会	1996年
『私の研究餘録』	村田勉	1990年
『海軍火薬廠小年表』	平塚市中央図書館	1993年
『日本基督教団平塚教会五十年史』	日本基督教団平塚教会	1966年
『明治過去帳』	東京美術	1971年
『平塚市民文化情報紙 たわわ』NO. 18	平塚市	1996年
『朝日新聞』1942年(昭和17年)1月8日		
※『波多野精一全集』6	岩波書店	1969年

(羽仁説子関係参考文献)

※『羽仁説子の本』5	草土文化	1980年
『妻のころ』	岩波書店	1979年
『婦人之友』1942年(昭和17年)4月号		
『朝日新聞』1987年(昭和62年)7月11日		

(注) 書名の前に付した※の資料は神奈川県立図書館で所蔵している。

ブックスタートが図書館ホームページから 申込みできるようになりました！！

平成17年9月から始まりご好評いただいているブックスタートが、図書館ホームページからお申込みいただけるようになりました。

ブックスタートは平塚市にお住まいの0歳の赤ちゃんと、そのご家族の皆さんに絵本を通じて触れ合っていただく子育て支援活動です。内容はボランティアによる読み聞かせのアドバイスや実演で、絵本のプレゼントもあります。

対象のかたはこの機会にぜひお申込みください！

詳しくはチラシ、ホームページをご覧ください。



リサイクルフェアのご報告



開催日

平成18年10月31日（水）

提供者数 1,039人

提供冊数 16,689冊

毎年多くの方にご来場いただいているリサイクルフェア。今年で第10回目を迎え、1人あたり30点まで（雑誌は無制限）お持ち帰りいただきました。

当日は好天に恵まれたこともあり、今回も大勢の方にご来場いただくことができました。会場では特に料理・裁縫の本や絵本のコーナーが人気でした。

なお、当日は募金に25,582円が集まりました。この募金は平塚市社会福祉基金に寄付させていただきます。ご協力ありがとうございました。

冬休み子ども人形劇場 南図書館
 日時：平成19年12月26日（水）
 場所：南図書館（なぎさふれあいセンター2階 集会室）
 時間：午前11時からと午後1時30分からの2回公演
 演目：『あっぱ・うっぱ・おっぱ〜カッパのこどもたち』他
 劇団：小さいお城
 ※ 午前の部は10時40分から、午後の部は1時10分から2階ロビーにて整理券を配布します。（各回先着100名）
 ※ 入場無料
 お問い合わせは南図書館（0463-21-3080）まで

「わらべうた・手遊びの会」のお知らせ
 日時・会場：
 平成19年12月13日（木）中央図書館
 12月14日（金）北図書館
 午前10時から11時（午前9時30分開場）
 内容は同じです。どちらかに申し込みください
 対象：平塚市内在住の未就園児とその保護者（各回先着20組）
 申込方法：12月1日（土）から中央図書館（0463-31-0415）へ電話でお申し込みください。くわしくは、図書館ホームページ、図書館内に掲示してあるポスターをご覧ください。

● 年末年始の休館日のお知らせ

平成19年12月29日（土）～平成20年1月4日（金）まで、平塚市の図書館は全て休館します。

● 特別整理休館のお知らせ

2月、3月は図書の特別整理期間のため、月曜日・月末日以外にも休館になります。

○は開館日 ×は休館日																															
	2月														3月																
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
中央図書館	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○
北図書館	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
西図書館	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○
南図書館	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○

中央図書館 2月26日（火）～3月7日（金）、北図書館 2月14日（木）～2月21日（木）

西図書館 3月6日（木）～3月13日（木）、南図書館 2月20日（水）～2月27日（水）が休館です。

お問合せ先

 中央図書館 〒254-0041 浅間町 12-41 Tel 0463-31-0415 Fax 0463-31-9984	 北図書館 〒254-0013 田村 3-12-5 Tel 0463-53-1232 Fax 0463-53-1261	 西図書館 〒254-0911 山下 760-3 Tel 0463-36-3555 Fax 0463-36-7230	 南図書館 〒254-0813 袖ヶ浜 20-1 Tel 0463-21-3080 Fax 0463-21-5181
--	---	--	--

ホームページ：http://www.lib.city.hiratsuka.kanagawa.jp/（URLが変わりました）

メールでのお問合せは、ホームページの中にある「お問合せ」のフォームでお送りください。

きいふ 72号 編集・発行 平塚市中央図書館 発行日 平成19年12月